

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|------|
| ① 国語 | 51 人 |
| ② 算数 | 51 人 |

5 留意事項

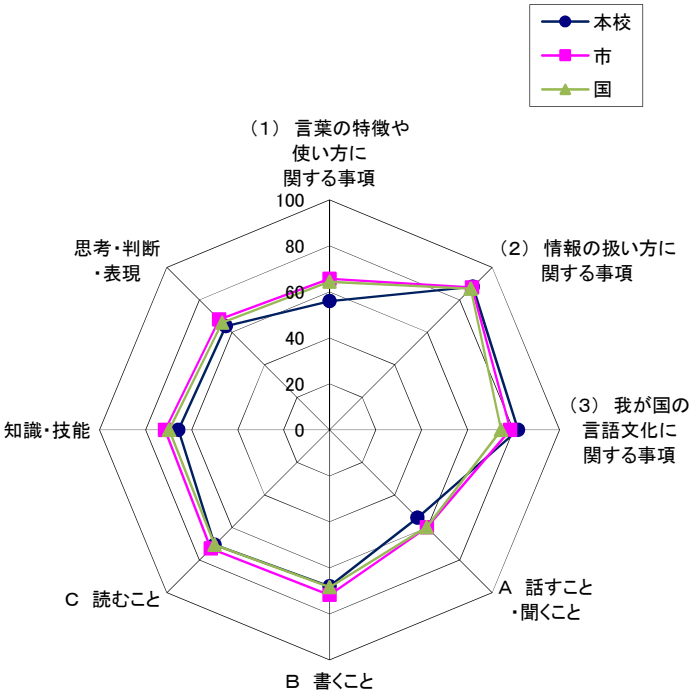
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	56.0	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	88.0	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.0	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	54.0	59.9	59.8
	B 書くこと	68.0	71.8	68.4
	C 読むこと	70.7	72.9	70.7
観点	知識・技能	65.7	71.5	69.8
	思考・判断・表現	63.8	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

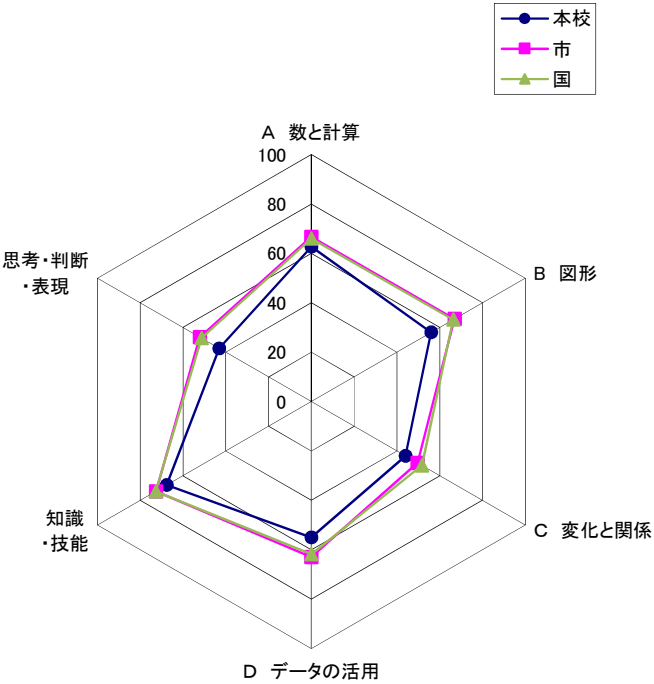
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●漢字を正しく書き直す問題の正答率が低い。 ●話し言葉と書き言葉との違いを問う問題の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を学習する際に、漢字の成り立ちや意味、熟語にも目を向け、同音異義語などにおいても正しく漢字を使うことができるようにする。 ・話す相手や状況に応じた適切な言葉遣いについて、具体的な場面を通して、適切に判断し使用できるようにしていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を捉える問題の正答率が高い。	・今後も、自分の考えなどを図を使って整理することを通して、情報や語句のつながりを意識しながら文を組み立て、筋道を立てて考えを述べられるようにしていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均を上回っている。 ○読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いているかを問う問題の正答率が高い。	・今後も本に触れる機会を確保するとともに、読書の記録を振り返ったり友達同士で感想を述べ合ったりする活動などを取り入れることで、本を読むことのよさを実感できるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかを問う問題の正答率が高い。 ●目的や意図に応じて伝え合う内容を検討する問題や、自分の考えが伝わるよう表現を工夫する問題の正答率が低い。	・今後も、自分の考えを相手に伝える活動をする際には、伝える目的や内容を明確にし、そのために必要な情報を考え、整理する活動を重視していく。 ・相手が必要としている情報を正しく理解し、それに関連した情報や考えを伝える活動を取り入れていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりするなど、伝えたいことを明確にすることができるかを問う問題の正答率が高い。 ●自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く問題の正答率が低い。	・今後も、文章を書く前に自分の考えを整理・分類し、伝えたいことを明確にする活動を取り入れていく。 ・様々な場面において、書く活動を取り入れ、自分の考えを文章で明確に伝えられるようにしていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均と同じである。 ○人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする問題の正答率が高い。 ●登場相互関係や心情などについて、描写を基にとらえる問題の正答率が低い。	・今後も、情景描写や人物の行動などの叙述から人物像を想像する活動を取り入れていく。 ・物語文の叙述を基に、人物の心情変化や関係性を捉えることで、物語の面白さに気付き、想像力を働かせることができるようにしていく。

宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	62.7	66.7	66.0
	B 図形	56.0	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	44.0	49.6	51.7
	D データの活用	55.0	62.9	61.8
観点	知識・技能	67.6	72.6	72.8
	思考・判断・表現	43.1	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○基本的な割り算の問題の正答率が高い。また、「 $350 \div 0.7$ 」の計算の仕方について、「 $350 \div 7$ 」の計算を基に商を導く問題の正答率が高い。 ●問題場面の数量の関係を捉え、式に表す問題の正答率が低い。	・計算練習については、朝の学習を活用しながら反復学習に取り組んできた。今後も引き続き取り組み、計算力の向上を目指す。 ・問題を場面絵や数直線などの図で示すなどしながら、問題場面を把握するようにし、問題の数量関係を正しく捉えられるようにしていく。
B 図形	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●円柱の正しい展開図を選ぶ問題の正答率が低い。 ●直径22cmメートルのボールがぴったり入る箱の体積を求める問題の正答率が低い。また、県と比較して無回答率の割合も高い。	・立体図形を開いて展開図にしたり、展開図を組み立てて立体図形に戻したりと、頭の中でイメージすることに課題が見られる。立体図形の学習では、実際に図形を作図する機会を積極的に設け体感的に学ぶようにすることで、空間認識力を高められるようにする。 ・計算練習に比べ、図形の問題練習が少ないことも考えられるので、朝の学習等を活用し、復習の場を多く設定する。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●3分間で180メートル歩くことを基に、1800メートル歩くのにかかる時間を求める問題の正答率が低い。 ●道のりが等しい場合の2つの速さを比較し、どちらが早いかを判断し説明する問題の正答率が低い。無回答率が0%であるため、速さの意味の理解や説明の仕方に課題があると考えられる。	・提示された情報を使って問題を解くことに課題が見られる。伴って変わる2つの量について、時間(距離)が変わると距離(時間)はどう変わるかなど、表やグラフなどを用いて関係を整理していくことで、2つの量についての規則性を見だし、よりよく問題を解けるようにしていく。 ・普段の授業において、話し合い活動として、自分の考えやその根拠を説明し合う場を設定しているが、伝えたいことを明確にできているかなど視点を示しながら、話し合い活動の内容の充実を図る。
D データの活用	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、説明する問題の正答率が低く、また、全国や県に対して無回答率の割合も高い。 ●示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び開花予想日を求める問題の正答率が低い。示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、解を導くことに課題が見られる。	・算数に限らず、社会や理科などにおいてもグラフを読み取ったり書いたりするなどグラフを活用し、折れ線グラフや棒グラフ、円グラフなど多様なグラフの読み取りの力を向上させる。 ・示された情報が文章で書かれている場合、文章を正確に読み取ることができていないことが考えられる。そのため、算数の学習に留まらず、文章の要点をまとめる活動を意図的に設けることで、文章を読むことへの抵抗感を払拭し、必要な情報を正しく読み取れるようにする。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に全児童が肯定的回答であった。今後も自己有用感を育み、互いのよさを認め合う、居がよいある学級づくりを推進し、すべての児童が安心して生活できる環境づくりに向けて、家庭と協働していく。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いには、全児童が肯定的回答をした。引き続き、人権意識を高め、友達のよいところを認め、温かい雰囲気の醸成を学校全体で取り組んでいく。

○「自分にはよいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は9割と全国平均を上回った。今後も自己肯定感を高められる声掛けや、学級として個人を認め合う取組を継続する。

○「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は9割を超えていた。今後も、学習意欲を維持向上させるため、複数の教員で行う朝の学習時において、既習内容の復習や活用をしていくなど、学習体験の充実を継続する。

●「○○(教科名)の学習は将来役に立つと思うかどうか」の問いはすべての教科で肯定的な回答が全国平均を上回っており、学習の必要性についての意識は高いと考えられる。しかし、「○○(教科名)の勉強は好きですか」の問いについての肯定的な回答は、すべての教科で全国平均を下回っている。児童にとって学ぶ喜びが感じられ、意欲が高まるような問題解決的学習の充実に取り組んでいきたい。

●「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか」の質問に9割以上の児童が肯定的回答であったが、「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問に対しては、肯定割合が8割未満であり全国平均を上回るものの県平均を下回った。どの教科でも次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができるように、実生活とつながる課題の設定していきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
協働的な学びの充実	・視点を明確にした話し合い活動を取り入れるなど、話し合い活動の質の向上を図る。 ・ICTを含めたツールなどを活用しながら、互いの考えを共有し、学び合いを通して考えを深められるようにする。	・友達と考えを共有したり比べたりする点においてICT活用のよさを感じている児童が多い。また、授業中の話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりできていると感じている児童が多い。一方で、自分の考えが伝わるように表現を工夫することについては課題が残る。
基礎的な知識・技能の確実な定着	・朝の学習にT・T体制を取り入れたり、習熟別プリントに取り組んだりするなど、個に応じた指導の充実を図る。 ・家庭学習強化月間を取り入れ、学習習慣の定着を図る。	・漢字の読み書きや基本的な計算について、全国平均を上回ったり近づいたりしてきているものの、個人差が大きい。 ・家庭学習において、休日にも取り組む児童が増えている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えを述べたり、(そう考えた)理由を説明したりする問題の無回答率が高い。	文章を書く機会を積極的に設け、文を書くことへの苦手意識や抵抗感を払拭する。	・授業の中で、自力解決の時間を十分確保し個に応じた支援を行い、効果的に話し合い活動ができるようにする。また、なぜそう考えたのか問い返すなどしながら、理由を説明することを意識させていく。 ・朝の学習や家庭学習において、文字数や段落数など条件を工夫しながらスモールステップ的に文章を書く課題を多く設定する。
領域による基礎・基本の定着に差が見られる。	児童に合った教材を精選し、苦手分野の向上を目指す。	・引き続き、チームティーチング体制を朝の学習に取り入れ、児童の課題を見付けやすくする。また、学習プリントなどの内容を見直し、児童の弱点克服に合う課題を提示する。